

笛吹市探訪

『ふるさとの祭り』四

「下黒駒石尊祭」



石尊祭での水掛け



下黒駒石尊祭会場の天神社

ふるさとの祭りシリーズ第四回では、下黒駒石尊祭を中心に、市内各地に伝わる石尊祭を紹介しませう。

石尊信仰は、神奈川県伊勢原市の大山阿夫利神社に由来します。この神社のある大山は、またの名を「雨降山」といいます。常に雲や霧を生じ、雨を降らすことからこの名が起ったといわれています。山頂に霊石が祀られていたことから「石尊大権現」と称されています。

笛吹市御坂町周辺は、水不足や

洪水による被害が多く、水に苦労した地域でした。特に下黒駒地域では石尊信仰が盛んで、盛大な祭りが開催されています。

下黒駒石尊祭は、300年以上前から伝わる伝統行事で毎年8月23日、御坂町下黒駒の天神社境内で行われます。境内の堀にふんどし姿の青年たちが飛び込み、「ざんげ ざんげ ろっこんしょうじょう なむせきそんだいごんげん だいてんぐ しょうてんぐ」と唱えながら水を掛け合う御垢離取りを行い、水難水防、病魔退散を祈り



阿夫利天神(下黒駒)

ます。ここに出てくる「だいてんぐ しょうてんぐ」とは大山阿夫利神社撰社奥社(一)に祭られている「オオイカツチ」「タカオカミ」のことです。お祭りの際には、地元下黒駒区民謡部の踊りや甲斐の国御坂天雷太鼓の勇壮な演奏などが行われ、各地から大勢の方が訪れます。

石尊信仰は市内各地に見られます。下黒駒のような盛大な祭りは

少なくありませんが、各地に残る「石尊山」や「阿夫利」と彫られた石碑などはその名残りです。また、石和町中川と御坂町成田の境

界付近の鎌倉街道沿いには「富士大山道」(富士山、大山阿夫利神社方面を指す)と「中山道」(広蔵院方面を指す)と刻まれた天保2年(1831年)の道標があります。このことからも江戸時代に石尊信仰、大山詣が盛んであったことがうかがえます。



大山、中山分岐道標

(一)撰社：本社に付属し、その祭神と縁故の深い神を祭った神社。本社と末社との間に位し、本社の境内にあるものを境内撰社、境外にあるものを境外撰社という。
(二)奥社：神社で、本社より奥にある神社。奥宮。